

日本医師会インターネット生涯教育協力講座<アトピー性皮膚炎における外用療法の実際>

## アトピー性皮膚炎治療の現状 - 1

### アトピー性皮膚炎治療の 現状と標準治療

● 総監修 ●

東京逋信病院皮膚科

江藤 隆史

## アトピー性皮膚炎治療の現状と標準治療

### 【1】アトピー性皮膚炎 治療の現状

#### ○アトピー性皮膚炎の特徴は「痒み」

- アトピー性皮膚炎は、猛烈なかゆみの特徴。体の中から湧き上がり、爪で搔いても搔き足らず、刃物で搔きたくなるほどである。搔破により皮膚が破れ、血液や滲出液がにじみ出てくる。
- 皮膚が汚い自分に自信をなくしたり、引きこもり、不登校、就労困難など、社会生活が成り立たなくなることもある。

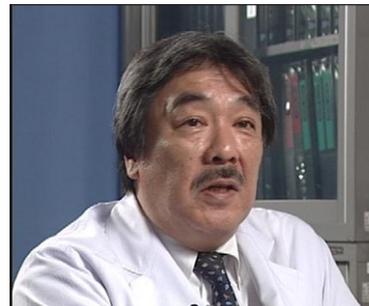
#### ○「脱ステロイド」に翻弄される患者

- インターネットなどに氾濫するアトピー・ビジネスでは、「魔の薬・ステロイド」などと不安をあおり、盛んに「脱ステロイド」を促すものがある。
- このような間違った情報に悩み、民間療法に翻弄される患者も少なくない。子どもの看病に疲れ果てての一家心中、といった事例も報道されている。

#### ○医療は患者の不安に応えているか

監修者：東京通信病院 皮膚科部長 江藤 隆史 医師の話

- マスメディアなどによる「ステロイドは怖い」という誤った情報が浸透し、ステロイドを継続使用する不安を医師に訴える患者も多い。
- 医師は、ステロイドの有効性、安全性をきちんと説明すべきであるが、一人の患者に当てられる診察時間が3～4分程度である皮膚科診療の現状では、詳細な情報を伝える余裕がない。
- また、インターネットなどの情報に翻弄され、恐くなって患者が自分でステロイドの使用をやめてしまう例が多く見られる。



## 【2】アトピー性皮膚炎の標準治療

### ○外用薬の中心に位置づけられるステロイド

- 日本アレルギー学会と日本皮膚科学会は、それぞれ「アトピー性皮膚炎診療ガイドライン」をまとめ、診断基準や重症度基準を定め、薬物療法を中心とした治療の手順を示している。
- 確かなエビデンスに裏付けられたこのガイドラインが提唱する「標準治療」では、ステロイドが外用薬の中心に位置づけられている。
- しかし、ステロイドに対する誤った認識は根深く、標準治療の普及がまだ十分に進んでいないのが現実である。

### ○医療者にとっての課題

監修者：東京逡信病院 皮膚科部長 江藤 隆史 医師の話

- 中途半端なステロイドの使用では効果が発揮されにくいため、炭火のような炎症が延々と続き、皮膚を刺激し続けて色素沈着が生じる。
  - ▶色素沈着はステロイドが原因ではなく、逆に不十分な使用を続けたためである。
- 医師はステロイドの正しい知識を患者に伝えることが必要である。



医療者側、患者側双方の問題点を明らかにしつつ  
標準治療に沿ったアトピー性皮膚炎の外用療法の推進が望まれる。